

☆対北大戦について（H26.4月～H27.5月31日）

遂にこの歓喜の瞬間を迎える事が出来た。今思い出しても胸が高鳴る。

男子対校クルー、つまり大会を飾る最終レースにおいて商大が北大に勝ったのは、1987年のエイトが最後である。その時のエイトの写真が小樽商大を受験する高校生向けパンフレットに載っていて、思わず心惹かれたのを今でも覚えている。その思いがどこかに残っていた自分はその翌年商大入学と同時にボート部に入部、そのエイトで6番を漕いでいた尾崎さんが自分達のトレーナーを務めて下さった。

しかしその年1988年から商大は対北大戦での不名誉な連敗記録を続けることになる。つまり自分の漕手・コーチとしてのボート人生は、北大戦負け続け人生でもあったのである。もう今だから言えるのだが、このことだけはインカレ準決勝進出でもぬぐえなかった劣等感、コンプレックスの根源だった。

しかし一昨年の定期戦で一つの歓喜があった。まだ歴史は浅い女子の対校戦で商大のダブルスカルが見事北大に圧勝したのである。強い逆風の中での2,000mレースを制した事が、自分の目を開かせてくれた。

そして今回の対校男子舵手付フォアの勝利。練習だったら多分危険と判断して帰ったであろう白波立つ超逆風のペケレットでスタートからグイグイ離して30秒差の完勝である。28年ぶりの対校男子の勝利は自分のコンプレックスという重い荷物を解き放って新しいスタートに立たせてくれる劇的な勝利だった。

4月からの練習を振り返る。

フォアのメンツはS.高木(4)、3.安生(4)、2.大塚(2)、B.江口(2)、C.中村(4)。3月のタイムスにも書いたが、はっきり言ってこのメンツしかないないのである。だから故障だけはしてくれるなという思いで練習してきた。しかもエルゴの2,000m平均値は7分20秒程度と、近年では最も低い。正直水上シーズンが始まる時点では勝てると思える要素はほとんど無かった。新人勧誘が終わった4月18日からすぐフォアを組み始めたが、スイープに不慣れな2年目が半分いたこともあって初めはそれこそペアワーク中心、岸漕ぎでアウトハンドとインハンドの使い分けを教えたりと、地道な練習ばかりやっていた。ついでに言う（4月に入って突然通達されたらしいが）土曜日に平日の講義が振り分けられることになり、土曜の午前練習が出来ない日が何度かあった。それに加え4年目が就活で不在にもなれば代わりがないからフォアでの乗艇は出来ないし、この時期特有のラフコン続きにも泣かされた。GWの真ん中、5/3くらいにやっと両舷のバランスが安定し始め、ユーティリゼーションがトレーニングらしくなってきたものの、5/10にノリでやった1,000m計測ではなんと4分3秒といつともないタイムを出してしまった（逆風且つハラキりもあったが）。正直言って歴史的な大差で負けるのではないかという不安さえよぎったが、逆にクルーも自分も失うもの無い状態で再スタート出来たと思う。5/16からのラスト2週間で調子が上がった。クルーとしての漕ぎの形がはっきりしてきた。メニューもレースレート漕短力150本+2分×8とか、2.5m-1.5kmをr.28で2セット漕ぐなど、全体的に質・量共に増やしていった。ちょっとだけ今までと変えたのは、スタート練習や500mなどのタイムトライアル等に走りがちなの時期にハードな練習量を積み重ねた事かも知れない。まだやるだけ伸びるクルーだと思ったし、力を伸ばす方が試す方より優先だろうと思った次第である。それが2,000mという距離に対する心身両面の準備にもなると考え、レース前日の午前練習でも2.5kmをr.28で一本プラス500m×3セットという今までなら体力温存の為に避けたようなメニューを入れた。勝てる勝てないは別にして「勝負になる」と感じたのは5/26の朝練くらいだったと思う。

ただ「時の運」が味方したという面もある。北大もエイト1パイに補漕一人と人数が少なく、且つかなり調子を落としていた事は否めない。5/23に行った2,000mのタイムトライアルは静水無風で7分19秒。もし去年の北大戦だったら負けていたと思われるレベルである。しかし向こうの対校フォアもストロークペア4年目、パウペア2年目という構成は商大と全く同じであるから、それを考えたら商大の選手は千載一遇のチャンスを見事ものにしたと言えるだろう。

ただ反省材料もある。あれだけ冬練習期間から故障者を出さないというテーマでやってきたにも関わらず唯一の女子漕手阿達が腰痛で定期戦をキャンセルしてしまった。フォアの中にも実は無理を押し漕いでいる者がいる事を考えると、やはり故障者対策は万全ではなかった事になる。水上シーズンが始まってから多くなっている事から、身体のケアだけでなく漕ぎ方にも問題がある可能性は高い。まだ研究の余地がある。

北大戦ではここ10年は商大側の人数不足によってエイトでのレースが出来ず、代わりにフォアやダブルに、いわば“お付き合い”頂いている状態が続いていた。しかもそれでも負けていた訳である。今回やっと正常な定期戦のあるべき姿に戻すことが出来た。これを続けてお互いがリスペクトをもって切磋琢磨し合う関係に戻りたい。更にはエイトでのレースを復活させる。その二つを次の目標としたい。

ともあれ今回の定期戦では新たにボート部の仲間になってくれた新入部員（男9名、女子マネ4名）にも、OB・OGの皆さんにもいいところをお見せ出来て、自分もこの上なく嬉しかった。フォアのメンツに放り込まれた茨戸の水は思ったより冷たかったと報告してこの稿を終える。

日々の詳しい練習内容や感想は私のブログ「谷津の穴」をご参照下さい。

ご意見・ご要望等あれば私の下記アドレスまでお願いします

n.tanitsu@yahoo.co.jp



フォア、フィニッシュ直後

集合写真

1年生ジョイフォアクルー

